

1.2 試験掘削及び段階整備

(1)試験掘削の目的

ワンド・エコトーンの創出やエキサイゼリの保全に関する物理環境条件等の知見を得る。

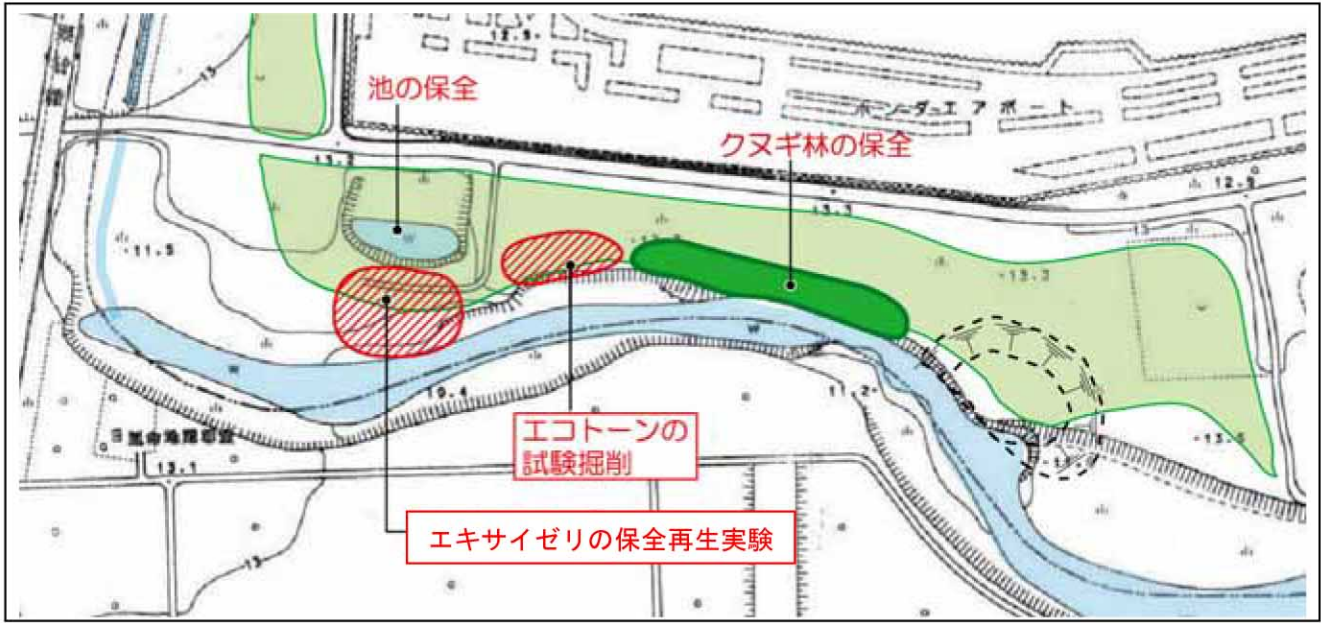
(2)当面の事業スケジュール

メニュー	H16	H17	H18	H19
エキサイゼリの保全実験		再生先の環境条件調査へ再生		モニタリング
試験掘削（エコトーン）		掘削	モニタリング	
ワンド・エコトーン創出			掘削	モニタリング
上池の掘削				掘削

(3)試験掘削・保全再生実験箇所の選定

試験掘削、保全再生実験箇所は、エキサイゼリの再生箇所を再掘削するなどの手戻りがないようにすることと、現況の地形及び植生等をできるだけ活かすようにして、以下の場所を設定する。
なお、エキサイゼリの生育条件からみた適地は以下の通りである。

- エキサイゼリの生息地は、大型河川の中流域の氾濫原の低湿地に成立したオギ（ヨシ）群生地の下層である。そのため、現在成立しているオギ（ヨシ）群生地を移植実験地として選定する。
- 水分条件：土壌の水分条件は、過湿状態ではなく適湿状態であることが条件となる。
- 土 質：細砂質や粘質土の混じった砂質であり、これらが厚く堆積していることが条件となる。
- 日 照：伸長期～開花期にかけて十分な光があることが条件となる。そのため、ヤナギ類、ハンノキ等の中～高木林内のように光が不足する環境は適していない。



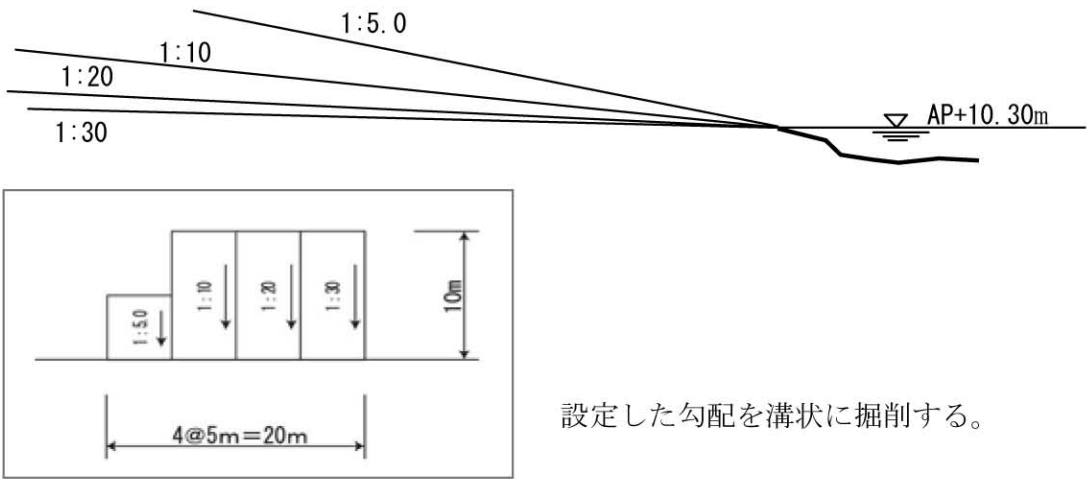
試験掘削、保全再生実験箇所位置図

(4)試験方法及び項目

1)試験掘削（エコトーン）

池の水位・地下水位との比高、土壌水分などに着目して、植生の回復状況を観察する。

- a. 水位（地下水位）との比高
- b. エコトーンの法勾配： 1:5.0、1:10、1:20、1:30



設定した勾配を溝状に掘削する。

2)エキサイゼリの保全

エキサイゼリ保全のための保全実験は、種子から発芽させる方法とする。なお、発芽に必要な条件を把握するために、現地試験を行う前に室内発芽試験を行う。（詳細は次頁参照）

再生する現地において着目する環境条件は、池の水位・地下水位との比高、土壌水分とする。

- a. 水位（地下水位）と再生地盤面との比高
- b. 再生地盤面の勾配

1:3.0、1:5.0、1:7.5、1:10.0、Level の5通りを設定し、各再生地盤に種子を植える。再生地盤には基準高からの比高を杭などでマーキングしておくこととする。

